

令和8年度 府立亀岡高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) 計画段階

学校経営方針		昨年度の成果と課題		本年度学校経営の重点	
<p>生徒一人一人が個性や能力を伸長させ、自立的に社会に参画し、人権尊重を基盤として共に支え合いながら、地域社会の一員としての役割を果たすことが求められています。このため、教育目標や教育方針に基づき、「自立し、ともに学び続ける(対話・挑戦・創造)」を最上位目標に掲げ、各学科、クラス、専攻がそれぞれの特色を活かしながら切磋琢磨することで、学校の活性化を図ります。</p> <p>「自立し、ともに学び続ける」(対話・挑戦・創造)</p> <p>(1) 質の高い学びと確かな進路実現の具現化</p> <p>(2) 社会的自立を図るために必要な資質・能力の育成</p> <p>(3) 地域・保護者に信頼される社会に開かれた学校づくり</p>		<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や関係機関と連携し学習活動が充実したものとなった。特に亀岡市と協働した行事に、積極的に取り組むことができた。 ・普通科、探究文理科それぞれの取組の成果を学校全体に広げることができた。学校外への発信も、工夫して取り組むことができた。 ・家庭等との連携や教職員間の連絡を密にし、生徒理解の促進、組織的な支援体制の充実を図ることができた。 ・観点別評価について、評価の在り方等に関する研究を継続できた。また、ICT活用について、校内プロジェクトチームを立ち上げ、授業力向上等に資する研究を行った。 ・個に応じた希望進路の実現に向け、校内体制の確立を図り計画的に実践することができた。 ・文化祭・体育祭では、生徒が主体的に参加し協働する力を高めることができた。 ・人権学習は確立された計画に従い、工夫・改善を加えながら実施できた。 ・施設等の破損箇所・不良箇所について、教職員間で連携し、スピード感をもって修繕に努め、安心・安全な教育環境の維持管理に努めることができた。高等学校DX加速化推進事業でグラウンドと体育館のwifi環境を整備し、校内すべての施設でwifi環境が整うようGIGA校内LAN配線のネットワーク拡張を行うことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究文理科と普通科の活動の共有を更に継続して行い、互いに刺激を受けることで活動をさらに深化させる。 ・わかりやすく質の高い授業実践に取り組み、生徒の主体的に学ぶ意欲を喚起する。授業及び業務に関するICT活用について、研究を継続する。 ・Can-Doリスト3級の達成率を向上させる取組についてさらに工夫し、日常的にCan-Doリストを意識させる工夫をする。 ・学校行事等における生徒の主体的な活動の促進のための仕組みづくりや、実施方法などの改善に努める。 ・防災教育の充実にも努め、様々な想定を付与した訓練を実施する必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆高い人権意識を持ち、未来を切り拓き、社会に貢献、牽引できる人材の育成 探究文理科、美術・工芸専攻を含む普通科を設置する高校として、関係機関や大学と密接に連携した活動を通して、質の高い学力と幅広い知識・技能を身に付け、予測不能な社会の諸課題に柔軟に対応し、リーダーとして貢献できる人材を育成する。 ○ 将来を顧みる ・キャリア意識高揚に向けた取組の実践(「キャリア10」「未来デザインプロジェクト」) ・的確な学力分析に基づく教科指導 ・学科・専攻に応じた組織的・計画的な進路指導 ○ 学ぶ ・学ぶ意欲の喚起と質の高い授業実践、授業力の向上とICTの効果的活用 ・学習指導要領の確かな実施・個別最適な学びの研究 ・探究活動の更なる充実 ○ 社会に通じる ・社会に通じる力を育む「ジェネリックスキル」や「探究クリエーション」の深化 ・Can-Doリスト6項目を意識した活用 ・生徒が主体的に参加する行事、部活動・ボランティア活動等の実施 <p>重点的に取り組む内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習・教職員人権研修の充実 ・デジタル・シティズンシップ教育の充実 ・関係機関や地域との積極的連携 ・美化活動と安心・安全な教育環境の実現 ・防災教育の充実 ・国際教育の推進 ・教育活動の積極的広報 ・教育課程の改善・新入学者選抜制度の積極的周知 <p>特色ある取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーサイエンスネットワーク京都校(府立高校特色化事業) ・京の文化継承・価値創造推進校(高校生伝統文化事業) ・高等学校DX加速化推進事業(高等学校等デジタル人材育成支援事業) ・まなびサポート事業 	
評価領域	重点目標	具体的方策		評価	成果と課題
組織・運営	魅力ある学校づくり	1	各学科、専攻とも地域や関係機関との連携を積極的に行い、特色を活かした取組を充実させる。		
		2	ジェネリックスキル、探究クリエーションの取組を工夫・充実・深化させ、学校全体の探究活動の幅をさらに広げる。		
	信頼される学校づくり	3	家庭や地域、関係機関との連携を図り、個々の生徒が抱える課題の把握や配慮・支援を要する生徒へのきめ細かな指導を組織的に行う。		
		4	Web、SNSなどを活用して生徒の学びの様子を発信し、効果的な広報活動を行う。		
教育課程 学習指導	学力の向上	5	タブレットや学習支援ツールを効果的に活用した授業実践に取り組み、わかりやすい授業づくりのための授業力向上に努める。		
		6	学習指導要領の確かな実施に伴い、授業や考査、個に応じた指導、円滑な評価を行う。		
進路指導	希望進路の実現	7	各学科、専攻の特徴に応じた組織的・計画的な進路指導を充実させることで、生徒の進路実現の可能性を広げる。		
		8	的確な学力分析に基づいた教科指導、進路指導を行う。		
キャリア教育	キャリア教育の充実	9	キャリア意識の高揚のため、第1、2学年を対象に「キャリア10」の取組を実施する。		
	社会に通じる力の育成	10	あらゆる教育活動を通して、Can-Doリストの6項目を意識させ、社会に通じる力の育成に取り組む。		
	国際理解教育の充実	11	グローバル社会に対応した多様な文化の理解に向けた取組を推進する。		
生徒指導	学校行事、部活動等の充実	12	体育・スポーツ、芸術文化活動の活性化と、学校行事及び特別活動の充実を図る。		
		13	部活動やボランティア活動への積極的参加を通して、健全な心身の発達を目指す。		
	生徒の自立・自律	14	学校行事の企画や運営に生徒が主体的に参加できるよう、より一層の工夫を図る。		
		15	社会人としての自覚と責任を一層意識させる指導を行い、デジタル・シティズンシップ教育をさらに充実させる。		
人権教育	高い人権意識の確立	16	人権学習について、方法等を工夫改善し、自他の生命や人権を尊重し、人権問題を自らの課題として捉え、解決に向けて実践できる資質・能力を育成する。		
	教職員の人権意識向上	17	高い人権意識に基づく教育活動を実現するために、教職員研修を充実させ、人権意識の高揚を図る。		
健康・環境 美化	美化意識の高揚	18	清潔で安全な学習環境を保つ清掃・衛生管理を進める。		
	健康管理	19	健康診断、経過観察、事後指導を充実させ、生徒の健康管理、生活習慣の改善に努める。		
防災教育	防災教育の充実	20	防災教育をさらに充実させ意識を高め、自らのいのちを守り、ともに助け合う力を育む。		
教育環境 の整備	安心・安全な環境の確立	21	日常から施設・設備の維持管理に努め、安心・安全で質の高い学習環境の整備を進める。		
	ICT機器導入と管理	22	高度化するICT機器の活用を協力して進め、管理や運用ルール等、ネットワークの維持のためのより良い体制の構築に努める。		
研究指定等	スーパーサイエンスネットワーク京都校(府立高校特色化事業)、京の文化継承・価値創造推進校(高校生伝統文化事業)				
評価	A:十分達成できている(目標以上の成果が得られた) B:ほぼ達成できている(ほぼ目標どりの成果が得られた) C:達成できているとはいえない(成果はあったが、目標に達していない) D:ほとんど達成できていない(ほとんど成果がなかった)				
学校関係者評価委員による評価					
次年度に向けた改善の方向性					